

《不安な個人、立ちすくむ国家》

～ モデル無き時代をどう前向きに生き抜くか ～

経済産業省「若手プロジェクト」
によるレポート
(2017年5月公表)

I. 「居場所のない定年後」 (対象者：現60代後半／70代前半の人達)

定年や再雇用打ち切りで、「職業寿命」を強制終了され、職場と社会から退場させられる。とりわけ男性は、リタイアして1年も経つと、特段やることもなくなり、あんなに能力も意欲もあった人が人生の目的を失い、家庭の中でも孤立してしまい、日がなテレビを観て、漫然と過ごすことに・・・

BST
コメント

現役の時に、「職業寿命／社会活動寿命を伸ばしていく」という《人生戦略》を知らなかったため、このような「居場所も／役割もない、生きる手応えを感じられない人生」になったのではないかな？

現60代後半／70代前半の「戦後生まれ」までもが、上の世代を後追いして、「定年まで勤め上げ、あとは悠々年金暮らし」という「昭和の人生すごろく」(=70年ライフの人生)を踏襲してしまった・・・

BST
コメント

OECDが2006年(平成18年)から提唱している「Live longer, Work longer」(=より長く生き、より長く働く)という時代になったことを、知らなかったのではないかな？

II. 「望んだものと違う人生の終末」 (対象者：現70代後半／80代の人達)

長年にわたる健康的ではない「生活習慣」(=思考習慣／行動習慣／食習慣)によって、『健康寿命』が尽きてしまい、「MCI」(=認知症予備軍)や「ロコモティブシンドローム」(=寝たきり予備軍)など、「慢性的に医療や介助を必要とする状態」になっている。そして、「認知症／癌」を発症する不安や「人工透析／寝たきり」になる恐怖に付き纏(まと)われることに・・・

BST
コメント

WHOが2000年(平成12年)に提唱した『健康寿命』という新しい考え方、この「健康寿命を伸ばしていく」という《人生戦略》を知らなかったため、このような「不安や恐怖に纏わりつかれ、とてもじゃないが幸せを実感できそうもない人生」になったのではないかな？